



浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成14年3月 第13号

読者の広場

「御同朋の皆さん気楽にご一緒しませんか」

「彼岸に思う」

本堂屋根瓦の落下の危険と地震対策を考え、昨夏より本堂屋根改修工事に入り、永らく皆様方にはご迷惑をおかけいたしました。お陰様で見事に銅板段付本瓦葺の立派な工事の完成をみました。これで皆様方に安心して御参詣いただくと、役員、世話人一同喜んでおります。

また、本堂内陣の親鸞聖人の御厨子^{おずし}が、ある篤信家の方の御寄進により納入することができ、内陣の御莊嚴^{ごしょうごん}が、一段と嚴かに深まりを感じます。

静かに本堂内で、合掌・お念仏申すとき、心洗われ、静寂な心になれる思いが致します。ありがとうございました。

お檀家お一人お一人の御協力により、当寺も大変風格のある様相を呈して参りましたこと、深く感謝申し上げます。

それにつけても、一番大切なことは一人でも多くの方が、親鸞聖人の御教えを悦ぶ身にさせていただくこととあります。蓮如上人も「一人たりとも信をとるが一宗の繁盛なり」と申しております。どうぞ、こんな政界も、経済界も、教育界も、社会全体が不安だらけの世の中だからこそ、ご多忙でしょうが、時間をお作りいただき、日曜礼拝、毎月8日の定例法話、そして各種の年間行事の法要に御参詣いただき、聞法聴聞の中に生きる本当の意義を見出してください。

家庭生活の中、社会生活の中、お念仏がいつぱいの喜びの充実した生活を味わいたいものです。

合掌 住職

お知らせ

4月8日は花まつりです。毎年当寺におきましては鳳凰殿にて、お釈迦様に甘茶をおかけし、その後、琴・尺八によります邦楽演奏がとりおこなわれております。今年は琵琶も加わっての演奏になります。きっと心に浸み入る音色を奏でてくれることでしょう。

是非お一人でも多くの方にお聞きいただき、思い出に残るひとときをお過ごしいただければと思っております。

～記～

場所 鳳凰殿
日時 4月8日 13:00 読経・法話
13:45 演奏
14:15 お花見

※お飲物、おつまみの用意があります。



さて、皆さんは「お寺」とお聞きになり、どのようなイメージをお考えになられますか？大部分の方は、「お葬式」「法要」「お墓参り」「お経」等々葬祭に關した事を思い浮かべられるでしょうね。日本仏教が、聖徳太子の時代から1,460余年も信仰されてきたという事実は、葬祭化を無視して庶民の信仰を独占することはできなかったでしょう。

ところで皆さんは、現代の世相をどうお考えでしょうか？政治の問題にしろ、経済の問題にしろ、1日としてテレビ・新聞のニュースに驚かされない日がございましょうか？

まさに「末法時代」でしょう。働き盛りのサラリーマンがリストラで家族と泣き、狂牛病問題が庶民の台所を脅かす。毎月の失業率が記録更新される。これまで私たちは、物質的に豊かになれば、それだけで幸福になれると思ひこみ、心の問題を忘れてきました。

多くの宗派に「三帰依文」という偈文があります。

(1)自ら仏に帰依する。(2)自ら仏法に帰依する。(3)自ら僧に帰依する。と言うものです。僧侶、お寺のお坊さんのことを「善知識」とも言います。これは私たち凡夫衆生をお導きになれるのに「仏教法話」という方便を以てなされるからです。

私たちの旦那寺「浄土真宗本弘寺」でも、この御法話を聴聞することができます。もちろん男女を問わず自由で、ご持参いただくのは御念珠だけで結構です。御講師は時には外の方の場合もありますが、ほとんどは本弘寺の善知識です。

(1) 日曜礼拝 毎週日曜日午前8時～ お勤めを含め約30分

(2) 定例法話会 毎月8日 午後1時～ お勤めを含め約1時間

ところで最近の参加聴聞者を見ますと、時にはボーイスカウトの若い諸君の参加もありますが、お孫さん連れでお嫁さんとご一緒のご高齢のご婦人が多いようです。新聞などの報道によりますと、一流企業の社長さんが職を辞してまで「仏」に帰依されたという話も聞きます。今こそ自分というものを取り戻すために、サラリーマンを含め多くの男性の方々こそ、「仏教法話」を聴聞し、心のよりどころを掴むことが大切な時代ではないでしょうか！

青木 明

編集後記

婦人会便りをご愛読いただけますことを、ありがたく思います。また、寄稿に御協力くださいました方々に深く感謝申し上げますとともに、これからもよろしく願いいたします。

今回は質問コーナーはお休みいたしました。次回8月に開設いたしますので、あんな事やこんな事、聞いてみたいと思っていることがございましたら、下記宛にお寄せいただければありがたく思います。お待ちしております。

高島美智枝 電話 042-752-3870